

## 第3学年〇組 道徳学習指導案

指導者 ○〇 ○〇

- 1 主題名 自分できめたことは 中学年1—(2) 勤勉・努力  
資料名 「一りん車にのれた」 (東京書籍)

### 2 主題設定の理由

- 本学級の児童は、行動が活発になり、交友関係も広がってきた。自分のしたいことが、たくさん見つかるとなり、自分から目標を立てて、取り組んだりできるようになってきている。しかし、ちょっとした困難なことにぶつかると、途中であきらめ、投げ出してしまったり、飽きてしまったりして、継続して取り組むことができないことが多い。「できるようになりたい」「わかるようになりたい」という願いや願望を持っているが、方法や手順が分からなかったり、めあてが過度であったりすると、やり遂げられなくなることも多い。

そこで、自分でやろうと決めたことに対して積極的にかかわっていきけるこの時期に、本主題を取り上げ、粘り強くやり遂げようとする態度を育てることは、意義深いと考える。

- 本主題は、「自分でやろうときめたことは、粘り強く努力する心情を育てる」ことを主なねらいとしている。人間が生き抜いていく過程には、いろいろな目標がある。人生の大きな目標から、日々の生活での小さな目標までさまざまである。その目標は、何の障害や困難もなしに達成できることは、ほとんどない。そこで、障害や困難なことに打ち勝ちながら、自分で立てた目標に向かって、最後まで、粘り強くやり遂げようとする態度を養っていくことが大切であることに気付かせることは、大変意義深いと考える。

- 本資料は、友達のように一輪車に上手に乗れるようになりたくて、毎日練習を繰り返しても転んでばかりいる主人公の「わたし」が、あきらめようとしていたが、一輪車クラブを見学することにより、再度、頑張ろうとする話であり、粘り強く取り組むことの大切さを考えることができる資料である。

本時指導にあたっては、何度練習してもどうしても一輪車に乗れず、一度は投げだしてしまうが、再度挑戦し、練習を重ねた結果、ついに乗れるようになった主人公の気持ちをとらえさせていきたい。

導入では、体育の時間に一輪車の練習をして、乗れなかった体験や、難しかったことなどを発表し、本時のめあて「くじけそうになっても、決めたことをやりぬく心を考えよう」へとつなぐ。展開1では、「わたし」の心情に視点をあてて、考えさせる。その際、何度練習しても転んでしまい、投げ出してしまいたくなった気持ちに共感させるために動作化を取り入れる。そして、再度挑戦し、練習を重ね、何とか鉄棒につかまりながらも、はじめて乗れた「わたし」の気持ちを役割演技させて考えさせる。あきらめずに頑張り、手放して乗れるようになった気持ちを考えさせ道徳ノートに書かせる。机間指導を行い子ども達の考えをカルテに記入し、把握する。価値が、賞賛→努力→友の支援→達成感になるように意図的指名を行い、「くじけそうになっても、あきらめないで、努力することのすばらしさ」に気付かせたい。展開2では、これまでの生活をふりかえり、クラスの子も達が、鉄棒、ドッジボール、リコーダーや音読の練習に頑張っている姿をとらえた写真を見せ、自分の中にあるやりぬこうとする気持ちを振り返り、価値を自覚できるようにする。終末では、教師が小学生の時に作った詩を音読し、目標をもち努力することのすばらしさを感じさせ、価値に対する意識の継続を図る。

### 3 本時のねらい

自分でやろうと決めた目標に向かって、くじけそうになっても粘り強く努力することの大切さに付け、あきらめずに最後まで頑張ろうとする態度を養う。

- 4 本時 平成21年11月25日(水) 第5校時 第3学年〇組教室において

- 5 準備 資料「一りん車にのれた」、板書挿絵、道徳ノート、言葉のカード、子どもたちの写真  
一輪車、詩(教師が小学校の時に書いた詩)

6 展開

段階	学 習 内 容	教 師 の 支 援
導 入	<p>1 体育で一輪車の練習をしたことを、想起し、本時のめあてを話し合う。</p>	<p>○ 一輪車の練習で難しかったことなど出し合う。</p>
展 開 1	<p>めあて くじけそうになっても、やりぬく心について、かんがえよう。</p> <p>2 資料を読んで、主人公「わたし」の気持ちについて考える。</p> <p>(1) ひざから血が出てきて、あざやすり傷だらけになっているわたしの気持ちについて話し合う。</p> <p>○ 痛い、できない、もうやめた。</p> <p>○ 一りん車なんかもう見たくない。片付けよう。</p> <p>(2) 一輪車クラブを見学した「わたし」の気持ちを確認し、久保田さんからアドバイスされ、ぐらぐらしながらも、鉄棒につかまりながら乗れたときの気持ちについて話し合う。</p> <p>○ どんどん練習して乗れるようになりたい。</p> <p>○ 力を抜くんだ。もう少しだ。</p> <p>○ あきらめないで、もっと練習するぞ。</p> <p>(3) 手放しで乗れるようになった「わたし」の気持ちについて話し合う。</p> <p>手ばなしでのれるようになったゆきちゃんのうれしい気持ちについてかんがえよう。</p> <p>○ 乗れるようになった。よかった。</p> <p>○ あきらめないでがんばれば、できるようになるんだ。</p> <p>○ 久保田さんのおかげで、乗れるようになった。</p> <p>○ 次はメリーゴーランドができるまでがんばるぞ。</p>	<p>○ 教師の範読を通して、資料の概要をつかませ、主人公の「ゆきちゃん」が出てくることを確認する。</p> <p>○ 転びながらも、練習に取り組む「わたし」の様子について挿絵を掲示し範読する。体育の時間に一輪車で、乗れなかった体験を出し合い、わたしの気持ちに共感させる。</p> <p>○ 「わたし」の気持ちに共感させるため、一輪車から転んでしまう場面を動作化させて、気持ちを発表させる。</p> <p>○ 再度練習を始めようとした気持ちの変化を確認するために、メリーゴーランドの挿絵を提示する。</p> <p>○ 練習を始めた「わたし」の様子を確認し、乗れるようになるまでかなりの日数が経っていることを下記の言葉から確認する。(次の日から練習、毎日毎日練習、ある日、少し乗れた、そのうち少しずつ手を放せるようになる、転び方も上手になる)</p> <p>○ 「わたし」の気持ちをつかませるため、二人の役割演技をする。役割演技が苦手な子もいるので、せりふを決め、それに付け加える形で気持ちを出させる。役割演技は、「わたし」の立場になってみるようにさせる。</p> <p>○ 一輪車に乗れず、泣きたい表情のゆきちゃんと、笑顔になった表情のゆきちゃんの挿絵を対比させ、頑張ったことに共感させる。</p> <p>○ 意図的指名を行い、価値に迫らせる。(賞賛→努力→友達の支援→達成感)</p>
展 開 2	<p>3 あきらめないで最後までやりぬいた事をふりかえり、道徳ノートに書き、発表する。</p> <p>○ 鉄棒やリコーダーを続けて練習していたら、うまくなった。</p>	<p>○ ささまざまな場面で、頑張っている姿を写真を見せ、努力することのすばらしさを感じさせる。めあてを達成した喜び、充実感、困難に打ち勝つことにつなげる子どもの体験談を出させる。</p>
終 末	<p>4 教師が、小学校の時に書いた詩を読む。</p>	<p>○ 書いたときの気持ちを話してから読む。</p>